

課題9事例

北海道石狩市

いしかりアグリ・マッチング創出実証事業

北海道石狩市では、令和2年度より市内農業と都市部住民との関係人口創出に向けた新たな取り組みを展開している。総務省の「関係人口創出・拡大事業モデル事業」の採択を受けて実施するもので、石狩市農業と都市部住民の関係性の構築を図っている。

その一つのプログラムである「石狩アグリケーション」は約10日ほど市内に滞在し、週4、5日は農家の下で作業をして、残りの時間を休暇やテレワークに充てるというものである。一時の観光消費だけではなく長期的に「関係人口」を増やして、将来的に新規就農などで地域農業の担い手を確保することを目的に実施している。



背景

新型コロナウイルスをきっかけに、旅先で休暇を楽しみながら仕事をする「ワーケーション」が、農山村でも広がってきた。インターネット環境を整備した上で、その地域でしか味わえない農作業体験のプログラムを用意して、人を呼び込む。都市住民と農村の橋渡しをすることで地域と継続的に関わる「関係人口」の創出を目指している。

取組内容

石狩市農業との3段階の接点創出ステージを設定し、都市部住民が自身の求める関係性を築けるようにした取組である。

■ライトな関係づくり

●石狩バーチャルマーケット

スマートフォンアプリ「ポケットマルシェ」上で交流販売スペース、市内生産者の情報を発信。

●石狩リアルマーケット

石狩市内の生産物を活用したオリジナル料理の提供を通じて、石狩の農業を見てもらい、知ってもらい、食べてもらうリアルな場を期間限定で開設。

<出張高校生レストランin石狩>

北海道三笠高校調理部、藤女子大学人間生活学科、札幌国際大学短期大学部との高大連携により、石狩産品を活用したコース料理を提供する。

料金: 1,000円/食

提供食数: 各日150食(令和2年10月3日~4日)

<石狩フェア(首都圏)>

東京都内銀座にあるご当地飲食店「お取り寄せダイニング+勝屋」とタイアップし令和2年10月の1ヶ月間、地域農産物を活用したコース・アラカルト料理を提供するとともに、店舗内で農産加工品の販売や地域情報の発信など、期間限定アンテナショップとして開設。また、フェア期間中に「交流イベント」を開催。

■ミドルな関係づくり

●石狩ファームピクニック

実際に石狩の農場を訪問し、農場内を散策しながら農作業の様子を真近で見学したり、収穫体験や、収穫物を使った軽食をその場で作って味わう体験型ツアーの造成に向け、令和2年9月から10月に計5回のモニターツアーを催行。

■コアな関係づくり

●石狩アグリケーション

アグリ(農作業)とバケーション(休暇)とを掛け合わせた造語で、石狩市内に10日間以上滞在し、週4~5日間農作業に従事し、残りの時間を農村休暇に充ててもらったり、テレワークを行うなど、リアルな農村での生活が体感できるプログラムを令和2年7月から9月にかけて実施。

ポイント

- 農業・ワーケーションを通じた市のPR
- 関係人口の創出
- 段階的な取組